



建学の精神

文武両道
質実剛健

学校教育目標

- (1) 目標を持って意欲的に生きる生徒
- (2) 礼儀を重んじ心豊かに生きる生徒
- (3) 勤労を喜びたくましく生きる生徒

スクール・ミッション

- 集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成
- 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
- 建学の精神「文武両道」「質実剛健」を身に付けるべき不易の価値と踏まえ、社会において将来自立し共生できる生徒の育成
- 学校教育目標を抛り所とし、協働する力や考えてやり抜く力を磨く生徒の育成

中期目標 (R4:2022～R8:2026)

本校での学びを生かし、豊かな人間性、望ましい勤労観、協働する力、しっかりしたコミュニケーション力を身に付け、様々な課題に挑戦し、将来社会において自立し共生できる生徒の育成

スクール・ポリシー

☆育成を目指す資質・能力に関する方針

中期目標の達成のため、次の1～8の資質・能力の育成を目指す

資質・能力	関連する word、説明など
1 基礎力	知識・数量・言語・情報を正しく読み取る力（新聞・教科書等を理解する力）
2 調査検討力	分からないことを調べるなど、異なる視点から検討する力
3 説明力	筋道を立てて考察・説明するなど、自分の考えを分かりやすく伝える力
4 キャリアプランニング力	キャリアに対する意識をもち、キャリア向上を目指す力
5 向上力	失敗を恐れずやり通す力 回復力 自己肯定力
6 共感力	多様性や異なる意見を認め他者とのつながりを意識する力
7 規律力	ルールやマナー、モラルを守る力 感情をコントロールする力
8 協働力	周囲と協力し社会参画しようとする力 コミュニケーション力

☆教育課程編成及び実施に関する方針

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、能力・適性・進路希望等、生徒の実態に即した、定時制教育の基盤を確かなものとする教育課程の編成に努める
- (2) 学校教育目標やスクール・ミッションを踏まえ、身に付けたい資質・能力を育むため、確実に、安心して学習できる教育課程の編成に努める
- (3) キャリア教育を重視し、社会とつながり、向き合うためのコミュニケーショントレーニングの場とする教育課程の編成に努める

☆入学者の受け入れに関する方針

- (1) 定時制課程での学びを理解し、働きながら地道に学びを身に付けようとする生徒
- (2) 幅広い教養を身に付けることを目指し、意欲を持ってしっかり学習し自らを高めようとする生徒
- (3) 高校生活の中で教員や他の生徒としっかりとコミュニケーションを図ろうとし、ルールや規則を守り、協働し、社会参画をしようとする生徒



学校経営テーマ

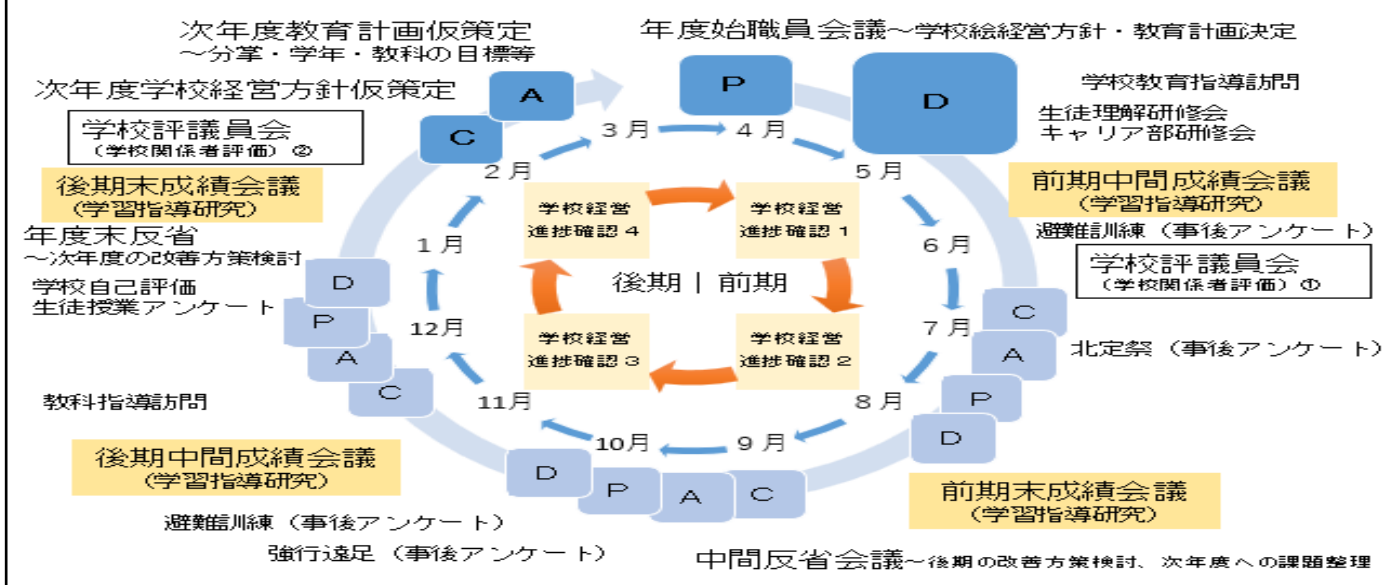
学校において資質・能力の育成を目指す
すべての活動は、生徒と教職員にとっての学びの場である。

学校経営方針

I 教 育 活 動	(1) 主体的な学び(学びの「態度」)<1 基礎力、4 キャリアプランニング能力> ア 生徒自らが学び続けることができるよう、言語や数的情報などを読み取る基礎力を育成する。 イ 社会とのつながりを実感できるキャリア教育の工夫により、生徒が卒業後も継続的に社会と向き合って生きる人生を展望する姿勢を醸成する。
	(2) 対話的な学び(学びの「方法」)<3 説明力、6 共感力、7 規律力、8 協働力> ア ツールとしてのICTを効果的に活用するなどして思考を深め、他者へ説明する力を育成する。 イ 他者への共感的理解の基礎となり、よりよく学び合うためのコミュニケーション能力を育成する。 ウ 集団生活へのあらゆる機会をとられ、人権や規律を守り、自他を尊重する意識を高める。 エ 良さを認め合い、協働的な学びに安心して取り組むことのできる関係性を構築する。
	(3) 深い学び(学びの「深さ」)<2 調査検討力、5 向上力> ア 個に応じた指導と観点別評価により、生徒がわからないことを調べ多角的に検討するなどして、自らの学びを深める力を養う。 イ 職業に関する学習や生活体験発表など、在り方生き方を考察させる機会等を通して、探究活動の充実を図る。
II 学 校 運 営	(1) 校内組織 ア 働き方改革を進め、情報共有や役割分担と協働により、機能的・効率的な学校運営の改善を図る。 イ 深い理解のもと、いじめ、不登校、問題行動、特別な支援等に適切に対応する体制構築に努める。
	(2) 教職員 ア 教職員間の良好な雰囲気作りにより、心理的安全性と同僚性が発揮される職場環境の構築に努める。 イ 法令遵守、服務規律の保持のほか、教職員の資質能力を高める研修の機会の確保に努める。
	(3) 地域連携 ア 教育活動の進捗状況や成果などの情報を積極的に発信することで、地域からの信頼を高める。 イ 日頃の丁寧で親身な対応、諸行事等を通して保護者や同窓会との良好な関係作りに努める。 ウ 大学や地域の外部講師や専門人材等を積極的に活用し、地域連携による教育活動の充実にも努める。

学校経営検証システム

カリキュラムマネジメント (定時制)





北海道北見北斗高等学校定時制 令和8年度学校経営重点事項

重点事項：協働的な学びの充実

社会の中で必要なコミュニケーション力を身に付けるため、生徒の個性や持ち味を尊重しつつ、北見北斗高校定時制（北定）らしい協働的な学びの一層の充実を目指す。

<策定の趣旨>本校定時制は、多様な生活歴や学習歴の生徒が共に学び合い、高め合う場であり、令和6年度学校経営方針における「I教育活動」での「2)対話的な学び」をより重点的に取り組むため策定した。

重点事項のコンセプトとイメージ

☆コンセプト

北斗高校定時制（北定）らしい協働的な学び～キャリア教育を中核に育むコミュニケーション力

学校の教育活動全体を通じて取り組むキャリア教育において、社会とのつながりを強く意識する総合的な探究の時間を中核に、コミュニケーション関連の力を高めることで、生徒の自己肯定感と自己有用感を高め、自身をもたせることで、主体的な学びや深い学びに繋げていく素地を養う。

☆イメージ

これまでの総合的な探究の時間におけるキャリアに係る学びの連続性を意識するとともに、教科科目や特別活動と有機的に結びつけることで、学習の効果を高め、自己の成長を実感させる。

- 1年次の柱 職業調べとグループ別探究活動
- 2年次の柱 職業人インタビューとグループ別探究活動
- 3年次の柱 インターンシップとグループ別探究活動

